

平成 30 年度 各地域包括支援センターの目標

○ キングス・ガーデン（第 1、2、4 支会、山田支会）

1) 基本目標

- ・地域包括ケアシステムの構築を念頭に置いて、行動する。
- ・「すこやかプラン川越 第 7 期」の内容を熟知し、各専門職がそれぞれの分野又は相互に協力しあって事業にあたっていく。

2) 重点目標

- ・地域住民との距離感を身近な関係として、出来る限り接点を多くもち、多くの高齢者の声を聴くように努める。
- ・一人一人を支援することは困難だが、そこには共通した問題、課題がある。それをまとめ、助け合う形につなげていく。
- ・介護予防・生活支援総合事業：包括支援センターの周知に努め、従来のやり方を見直し、より効果的な方法を検討しながら、**介護予防**を推進する。そのために関係機関へも積極的に働きかけていく。
- ・**認知症施策**：地域で生活するには、地域住民の理解が必要である。認知症サポーター養成講座だけではなく、当事者、家族の支援に関し地域住民へ実際に参加してもらえる地域ケア個別会議を開催していく。
- ・在宅医療介護連携：医療、介護の連携強化の為に、まずケアマネジャーと意見・情報交換を行い課題をまとめ、医療機関との関係作りについて検討していく。

○ 小仙波（第 5、6、7、8 支会）

1) 基本目標

- ・一人暮らしでも認知症になっても高齢者が安心して生活ができるような地域づくりのため関係機関との連携強化を行う。
- ・何かをやってみたい時、心配な時に気軽に相談できる地域から愛されるセンターを目指す。

2) 重点目標

- ・**介護予防**の重要性を周知、自立支援の視点に基づきケアマネジメントを行う
- ・地域包括支援センターシステムを活用し各業務の効率化を図る
- ・**認知症**について早期対応や見守りの必要性について啓発を行う。医療機関と連携しながら認知症の人を支援していく。

- ・オレンジカフェは7ヶ所開催。現在開催しているカフェについては今後運営方法をボランティアと検討する。
- ・出張相談会や出前講座、各事業等を通して地域包括支援センターの周知を進める。

○連雀町（第3、9、10支会）

1) 基本目標

- ・介護予防の視点を重視し、地域住民や関係機関とのつながりを深めることで、住民主体で地域の力を高める活動が行えるよう事業展開をしていく。
- ・認知症の理解や予防に関する啓蒙活動により、地域住民の認知症への意識を高めるとともに、介護する家族への支援強化を重点的に行う。

2) 重点目標

- ・総合相談や事業展開に必要な知識や技術の習得に努め、職員の資質の向上に努めるとともに、各専門職の専門性をお互いに出し合い協力体制がとれるチーム作りを心がける。
- ・地域の住民が、本人が望む場所で自立した生活が継続していけるよう、住民の介護予防についての意識を高め、行動につなげられるよう支援をする。
- ・認知症の方を含めた要介護者や介護者のサポートを直接行うだけでなく、地域住民の子供から高齢者の全世代の一人一人が見守り支えあえる体制が構築出来るよう取り組みを行う。
- ・より良い地域包括ケアシステムの構築を図るため、地域ケア会議を充実させることで地域の課題や特性を理解し、医療機関や関係機関、地域住民と共有し課題に取り組む体制を作る。

○よしの（芳野支会、古谷支会、南古谷支会）

1) 基本目標

- ・「地域で暮らし続けれる環境づくり」として介護予防と認知症の取り組みを強化する。
- ・地域住民に対して身近な信頼された包括を目指す。迅速丁寧な対応を行う。
- ・地域目線にたち、高齢者の今とこれからのに向けた事業展開を行う。

2) 重点目標

- ・「500メートル歩ける身体づくり。」を合言葉に地域にあわせて細やかに出前講

座、自主グループ支援を重ね包括的、継続的ケアマネジメント事業を活用し自治会単位での草の根活動を展開していく。

- ・ オレンジカフェをはじめとする多彩な事業の展開と認知症の予防や周知などを行う。又 重度化した方への対応を家族や医療関係者、地域住民と連携を図りながら支援する。
- ・ 地域住民や医療・介護、関係機関との連携を重視する。
- ・ 介護の方法や相談、アドバンスケアプランニングなど地域の方々が今とこれからを求めているような事業展開を行う。

○たかしな（高階支会）

1) 基本目標

- ①担当圏域ケア会議を3ヶ所（第1・3・4ブロック）で開催する。
- ②民生委員協議会との関係をより「太いもの」とする。
- ③「ICFアセスメント手法」を全職員が身につけ、業務用のアセスメント記録書式等を必要に応じて改善する。

2) 重点目標

- ①オレンジカフェを新たに2ヶ所開設し3ヶ所とする。運営方法を「3者構成(包括・民生委員・施設代表)」に改善する。
- ②「自立支援型地域ケア会議」を3包括の協力の下に3回開催する。
- ③直接管理の予防支援・マネジメント件数を150件超とする。
- ④予算管理を「見える化」し年度決算の赤字幅を100万円未満とする。
- ⑤認知症サポーター養成講座の小学校開催・企業開催を行う。

○みずほ（第11支会、福原支会）

1) 基本目標

- ・ 高齢者の方が住み慣れた地域で、安心して健やかに生活を過ごされるように、「高齢者に優しい街づくり」を支援する。

2) 重点目標

- ① 健やかに過ごされるよう「予防」の観点を重視する。
- ② 安心して過ごされるよう「地域」の観点を重視する。
- ③ 尊厳ある生き方を尊重し「自立支援」の観点を重視する。
- ④ 課題解決は「生活モデル」の観点を重視する。

- ⑤ 共生を念頭に「コミュニティ」の観点を重視する。
- ⑥ 在宅生活の継続を図るため「在宅医療介護連携」の観点を重視する。
- ⑦ 認知症の予防と症状の進行を抑える活動を重視する。
- ⑧ 高齢化してきた精神疾患患者への生活を支援する。
- ⑨ 地域包括ケアシステム構築に努める。
- ⑩ 介護支援専門員の後方支援に努める。
- ⑪ 高齢者の権利擁護事業に、関係機関と共に取り組む。

○だいたう（大東支会）

1) 基本目標

- ・ 包括三職種全員が連携し、チームでどのような相談にも応じる。地域に積極的に出向き、地域の方々と一緒に地域を支えるように努める。住み慣れた地域で、安心していつまでもいきいきと暮らす事が出来るような地域づくりを住民と共に行う。

2) 重点目標

- ・ **介護予防**を主眼に置き、自立した生活を送ることが出来るよう、利用者と共に目標設定をする。
- ・ **認知症**になっても安心して暮らす事の出来る地域を住民と共に築く。認知症の理解を深め、認知所の方へのさりげない見守りや支援が行えるよう啓蒙活動を行う。また、認知症を介護されている方へのサポートも引き続き行う。
- ・ **認知症予防、介護予防**の視点を持ち、地域での啓蒙活動に努める。
- ・ 医療機関、介護サービス事業所との連携だけではなく、地域住民も巻き込んだネットワーク構築を目指す。圏域包括ケア会議等の場を活用し、住民自らがネットワークの輪に入り、様々な機関との繋がりが持てるよう支援を行う。
- ・ 日東町、寿町二丁目への介入を積極的に行ない、住民と共に地域の課題を明らかにする取り組みを行う。課題を踏まえた地域の実情に合わせた取り組みを展開する。

○かすみ（霞ヶ関支会、川鶴支会）

1) 基本目標

- ・ 一つ一つの相談に迅速に丁寧に対応し、個別相談対応や住民との交流から見える地域課題やニーズにアンテナを張り、事業に反映していく。今年度も「地域密着」で業務に取り組んでいきたい。

- ・前年度から取り組んできた、「我が事・丸ごと」の地域づくりについて、多世代・多領域にわたる生活課題の相談に連携して対応できるよう、関係機関との顔が見えるネットワークづくりを進めていく。また今年度は、誰もがいきいきと暮らし続けることができる地域を目指し、事業の中でも住民と共に多世代交流や多職種連携を意識した活動を行っていききたい。

2) 重点目標

- ・**介護予防**の理念を念頭に置き、既存のサービス導入だけでなく、多様な地域資源の活用や創出を通じて、本人自ら選んで取り組み、介護予防の意識が高められるような支援を心掛けていく。
- ・**認知症施策**については、土曜や夕方の認知症サポーター養成講座開催や自治会や企業での開催の呼びかけ、「男性向け」や若い世代、児童向けなど、これまで普及が行き届かなかった対象者に向けての普及啓発に力を入れていく。地域の力を意識し、地域の自助・互助が高められるよう、住民と協働した事業運営に努めていききたい。

○みなみかぜ（霞ヶ関北支会、名細支会）

1) 基本目標

- ・地域の高齢者が自分らしく生活が続けられるよう、介護予防を中心とした取り組みを拡げていく。
- ・高齢者が住み慣れた地域やなじみの環境で尊厳を保ちながら生活が継続できるよう、地域の関係者とも連携し総合的・継続的に支援する。
- ・医療や介護の支援を必要とする高齢者が、必要な支援を適切に受けられるよう、関係者が連絡を取り合い、情報を共有できる環境を整備する。

2) 重点目標

①介護予防

- ・地域の力を活かし、いもっこ体操教室を開催する。
- ・いもっこ体操教室の受講者やときも運動教室の卒業者が地域で力が発揮できるよう支援する。
- ・出前講座を実施し、広く介護予防の普及啓発に努める。
- ・普及啓発事業においては、地域毎のニーズに応じた開催を検討していく。

②認知症施策

- ・認知症サポーター養成講座だけでなく地域のニーズに応じて出前講座を開催し、認知症に対する理解を深めていく。
- ・霞ヶ関北支会だけでなく名細支会でもオレンジカフェを開催する。

- ・ オレンジカフェは来てよかったとっていただけるような環境づくりに努めていく。(楽しめる環境・相談できる環境)

③地域のネットワーク作り

- ・ 地域会議をはじめとする関係機関の会議等に参加する。
- ・ 関係機関との連携を図り地域の課題や住民のニーズを把握していく。
- ・ 地域包括ケアシステムの構築を目的に担当圏域ケア会議、個別ケア会議を開催していく。
- ・ 地域情報を整理し、把握する。
- ・ ケアマネ支援として、ケアマネ情報交換会を定期的を開催する。また、ケアマネの相談機関としての役割を果たしていく。
- ・ 利用者が継続的に適切な支援を受けることができるためにも、在宅医療介護連携を密にとり、情報の共有に努めていく。